

団体・組織の概要

太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人ユーアイ自立支援の会		
代表者	富山 佳郎	担当者	富山 佳郎
所在地	〒894-0012 鹿児島県奄美市名瀬小俣町 3 番 5 0 号 TEL:0997 - 54 - 1800 FAX:0997 - 54 - 1809 E-mail:npo-uaikai@world.ocn.ne.jp		
設立の経緯 / 沿 革	・平成 11 年 12 月 任意団体ユーアイ自立支援の会活動開始 ・平成 12 年 4 月 無認可福祉作業所運営 ・平成 12 年 4 月 名瀬市資源ごみ回収開始時収集運搬委託事業契約 ・平成 12 年 6 月 NPO 法人ユーアイ自立支援の会発足 ・平成 22 年 3 月 障害者自立支援法による就労支援施設開始（予定）		
団体の目的 / 事業概要	この法人は、障害児、障害者、高齢者及び社会的弱者に対して、環境保全へのリサイクル活動や社会教育の推進を図る活動及び子どもの健全育成を図る活動を通して就労、作業支援及び生活支援並びに関係団体のネットワーク作りに関する事業を行い、障害児、障害者、高齢者及び社会的弱者が地域社会へ参加できることに寄与することを目的とする。		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	平成 12 年度 ・名瀬市資源ごみ収集・運搬事業委託事業受注 ・全国牛乳パック連全国大会発表 ・小中高等学校 100 校協力により奄美大島本島約 1/4、11 t 回収 ・小中学校環境学習時間に紙漉きにて授業参加 平成 13 年度 ・名瀬市資源ごみ収集・運搬事業委託事業受注 ・全国牛乳パック連全国大会発表 ・全国牛乳パック連主催「島内リサイクルを進めるシンポジウム in 奄美」協賛 ・NPO 環境政策提言冊子掲載 ・徳之島での牛乳パック回収システム作りと作業所設置支援 平成 14 年 ・名瀬市資源ごみ収集・運搬事業委託事業受注 ・中小企業庁調査事業「NPO 等地域との連携による商店街活動」報告書（事例集）掲載 ・沖永良部島での牛乳パック回収システム作り ・奄美大島本島での牛乳パック回収システム作り支援 ・小中高等学校 100 校協力により奄美大島本島約 1/4、11 t 回収 ・小中学校環境学習時間に紙漉きにて授業参加		
ホームページ			
設立年月	平成 12 年 6 月 * 認証年月日（法人団体のみ）平成 12 年 6 月 5 日		
資本金/基本財産 (企業・財団)	600,000 円	活動事業費/ 売上高 (H20)	6,277,564 円
組 織	スタッフ / 職員数 4 名 (内 専従 4 名) 個人会員 10 名 ; 法人会員 名 ; その他会員 (賛助会員等) 名		

政策のテーマ

奄美群島びんリユース障害者参画活動

- 政策の分野
 - ・循環型社会の構築
 - ・環境パートナーシップ
- 政策の手段
 - ・政策誘導する経済的措置
 - ・市民参画

団体名：特定非営利活動ユーアイ自立支援の会

担当者名：富山 佳郎

■ キーワード	リユース	障害者参画	パートナーシップ	経済的支援	持続可能
---------	------	-------	----------	-------	------

政策の目的

現在奄美群島（有人島 8 島、1 市 9 町 2 村）では、島の文化として黒糖焼酎が愛飲されているしかし、愛飲後のびん（1 升、5・4・2 合、化粧）のほとんどが資源ごみとして収集後カレットで島外搬出や不燃ごみとして一般家庭、事業所から排出されるカレットになり最終処分場で埋め立てている。上記びんをリユースしていける仕組み作りと障害者の作業として参加できる島内循環型地域活動作りが目的である。

背景および現状の問題点

- ・奄美大島本島（一市二町二村）の事業所及び一般家庭から出るびんは概ね、名瀬クリーンセンターにて分別後、粉碎処理され、埋め立て処分されている。解決への話し合い場面づくりが課題、問題点である。
- ・事業所は酒びんをゴミとして処分するため処理代金を支払い、排出している。
- ・事業所から出る酒びん（一升、五合、四合、二合、化粧びん等）をリユースするシステムがないため、びんのリユースシステム構築のための話し合いの場をつくるとともに障害者の作業として仕事づくりに繋げ、新たな活動、事業への布石とする。
- ・行政、社交業組合、酒造組合、酒卸問屋、小売業者、事業所等が話し合い共通認識のもと活動開始が必要と考えられる。

政策の概要

○ 活動の概要

- ・ゴミ減量とびん再使用のために、4 月から社交業組合、行政、酒造組合、小売組合等の合意のもと、屋仁川飲食店を対象として、埋め立てしていることの「もったいなさ」を再認識してもらい、リユースシステムの構築を提案、協議することで、理解、協力実施へと繋げる。
- ・一般廃棄物、市民からの焼酎びんも消費者、小売店、メーカーへとリユースできるシステムづくりを新たに再構築を図る。
- ・排出されているびんの分類、数量を調査し、データを広域組合、行政担当課へ提出し事業所から不燃ごみとして排出されるびんの発生抑制に繋げる。

○ 活動の必要性・妥当性

- ・昨今の情勢を勘案すると、事業所、酒造メーカーは経費の削減、名瀬クリーンセンターはゴミの減量化、並びに中間処理施設及び最終処分場の延命は喫急の課題である。
- ・酒びんとして十分リユースできるびんが、処理代金を支払い、破碎、埋め立てられていることは資源の無駄である。リユースシステムが構築できると事業所には今までとは逆にびん代が入り、酒造メーカーには、島内で循環する洗いびんが安い費用で購入できる。
- ・時代の背景として環境保全活動取組への支援の必要性。
- ・屋仁川地区飲食店で飲食することにより、環境保全活動に参加・協力でき、地域の活性化、事業所側の社会貢献に繋がる。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

（活動の実施方法）

- ・奄美市社交飲食業組合、テナントビル、各飲食店、奄美大島小売酒販組合、奄美大島酒造卸売組合、奄美大島酒造組合と各メーカーへの活動趣旨説明と協力体制づくりの実施。
- ・トラック、コンテナ（購入）、プラスチック箱（レンタル）、スタッフ（総務、作業員）による、回収、集積、洗びん、検品、納品の実現可能な仕組みづくりを各関係団体との合意のもと活動を実施。
- ・大島地区衛生組合、奄美市市民共働推進課への活動趣旨説明と協力体制づくり。
- ・屋仁川隣接6町内会住民への理解・協力づくり。
- ・奄美ゴミ問題・温暖化防止協議会と協力し、屋仁川飲食店、市民への理解・協力づくりとしてパンフレット・チラシづくり、活動紹介（地元テレビ、FM、新聞）の広報依頼を実施する。
- ・協力店舗、利用者用へのチラシ配布や地元住民への取組案内のチラシ配布。
- ・一般排出焼酎びんに関しても上記のシステム、ノウハウを生かし、市町村単位、又町内会、集落等の「ゆいの精神」を活かし、団体の力を生かせるシステムづくりを進める。

（実施スケジュール）

- 4月
 - ・各関係機関・団体への趣旨書づくりと説明、協力づくり。
 - ・社交業界含む関係機関・団体等とのびん再使用支援会議の設立。
 - ・1.5tトラック購入、軽トラック購入、20フィートコンテナ購入、高圧洗浄機購入、プラスチック箱レンタル、スタッフ（事務・労務）の選任。
- 4月～
 - ・協力事業所へのプラスチック箱設置と回収、集積、洗びん（手洗い）検品（目視検査）納品開始。
- 5月
 - ・先進地視察。（水俣市エコタウン）
 - ・社交業界含む関係機関・団体等とのびん再使用支援会議の開催。
 - ・使用構築過程、分析支援会議。
- 9月
 - ・半年分データ作成後社交業界、奄美市、名瀬クリーンセンター、奄美大島酒造組合等への報告書提出。
- H23年3月・一年分データ作成、効果、問題含めて報告書を作成し各関係機関・団体へ提出。

（年次計画）…複数年次に亘る活動の場合（過去の実績を含む。）

- ・H22年度
 - ・屋仁川飲食街へのびん使用構築づくりのため、各関係機関・団体への趣旨説明と協力、実施。
 - ・エリア隣接6町内会との協力関係づくり。
 - ・半径100m内屋仁川・協力店舗50店体制づくり。
- ・H23年度
 - ・半径200m内屋仁川・協力店舗100店体制づくり。
 - ・エリア内、名瀬裁判所、名瀬検察所、名瀬保健所協力体制づくり。
 - ・エリア内、6ホテル、3旅館協力体制づくり。
- ・H24年度
 - ・奄美市、龍郷町、瀬戸内町、宇検村、大和村での事業所協力体制づくり。
 - ・エリア隣接6町内会との協力関係づくり。

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- ・昨年度、奄美市において回収びんをリユースするための洗びん工場を立地することを、水俣エコタウンにて洗びん工場を経営の（株）田中商店が働きかけている。田中商店との提携にてびん回収と洗びん・リユースを実施する。
- ・びんリユースシステムづくりを円滑に推進するため、水俣エコタウン連絡協議会会長田中利和氏との協力体制作りとエコタウンでのノウハウを奄美市が活かせる場作り、連携作りも目指します。
- ・昨年度開催の環境省、経済産業省主催の「焼酎リユースびん推進会議」において、奄美群島の調査が議題に上り、1月25、26日に奄美入りが決定。環境省、鹿児島県環境部、民間調査機関、田中商店が焼酎メーカー、小売組合、社交業組合、大島地区衛生組合、奄美市産業振興課、市民協働推進課との実態調査を終了。
- ・以前からの活動の中で、各焼酎メーカーも、回収、リユースびんについては、有益との判断があり卸問屋、小売業者も消費者からの引き取りがあったほうが販売しやすい面があると話されリユースできる仕組みを望んでいる。協力体制作りを進めます。
- ・集落、スポーツ少年団等の団体回収もびんリユースができる取組の学習機会を作り、小売店、問屋、メーカーへ安心してリユースできるびんとして提供できる連携を進めます。
- ・奄美ごみ問題、温暖化防止協議会と協力し、びんリユースについての啓発活動を連携して進めます

政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- ・名瀬クリーンセンターへの搬入ゴミ減量化及び中間施設、最終処分場延命。
酒びん 45,000 本、再利用によるゴミ 8,613 kg減量、CO₂ 4,950 kg削減。
- ・奄美群島一の飲食店街、屋仁川のびん再使用構築活動を地元住民と協働することにより、環境保全活動の意識を高め、観光地としての PR、みどりのちょうちん活動取組準備、奄美の世界自然遺産登録への共働作業取組実践手法の布石効果。
- ・名瀬地区衛生組合、市町村行政担当課が事業所系一般廃棄物のうち、不燃物として排出されるびんの抑制、並びに「びん再使用構築モデル」として他市町村や離島地域及び授産施設への実施波及効果。
- ・再使用によるゴミ減量と活動を通しての各機関、団体の共働意識が高まる。また、この活動により、各家庭での環境への取組が促進し、環境市民が増加することが期待できる。
- ・一般排出焼酎びんに関しての回収本数、再利用によるゴミ減量、CO₂削減は現在数値的に正確には提出できませんが 4 ～ 5 倍は予想します。

その他・特記事項（事業の趣旨、目的、効果、波及、先駆性について）

- 現在、奄美の基幹産業が大島紬から黒糖焼酎へとバトンタッチされた中で、焼酎ブームにかげりが少し見えている。しかし、これからも島民の楽しみ、産業でもある焼酎造りは文化として、飲み続けられてほしいものである。
- 焼酎造りを続けていく上で、新たな取組、展開を実施する活動を提案します。
- 伝統ある黒糖焼酎が、おいしく飲み終えた後、ほとんどのびん（一升、五合、四合、二合、化粧びん）が事業所系、一般排出、資源ゴミとして排出されるが、ほとんど分別、粉碎された後最終処分場で埋め立て、又は沖縄県まで運送されています。
- ゴミとしての排出びんを地域の資源として新たな産業起しの推進、新規雇用の促進へと繋げることを提案します。
- 奄美大島本島、加計呂麻島、請島、与路島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島のびん排出抑制の提案。各島間のネットワークシステム作りや県本土、県外へのびんリユースシステムづくりネットワーク形成も目標とします。
- びんリユースシステムづくりの促進は、市町村相互の役割分担の下、再使用可能びんの分別方法が統一され、再使用可能びんが島を越えて広域的に循環できる取組の提案。島民・事業者・広域行政が協議し、同一目的・目標を持って、共生、共働による行政の政策としてゴミ減量化とびんリユース推進として取組むことを提案します。
- びんリユースによる効果として
 - ・地球温暖化対策の一つとして二酸化炭素抑制。
 - ・ゴミとしての排出抑制。ゴミの減量化に伴う各島のクリーンセンター施設の延命と最終処分場の延命。
 - ・群島内循環型システムを、びんリユースシステムにて実現。
- 奄美黒糖焼酎ブランドとして、島、県内外へびんリユース取組を PR し、販路拡大や観光客来島時の見学コースや、みどりのちょうちんの取組の可能性がある。
- びんリユース推進取組が奄美群島世界遺産登録への一布石となることを目標とします。
- 以前牛乳パック回収・紙漉き交流会等にて交流関係にあった小・中・高等学校へびんリユース取組の理解を得、環境教育、総合的な学習の一環として、小・中学校との交流が再開されることを目的とします。
- びんが何度も使用されることは、焼酎メーカーには、費用削減になり、びんの中身（焼酎）が詰め替え商品的な利用促進にもなる。
- 消費者は、環境保全活動参加者となり黒糖焼酎への愛着も出てくることを目標とします。
- このびんリユースシステムづくりは、失業者、障害者、高齢者（団塊の世代）が、個々の能力や適性、経験などを生かして、多様な雇用機会を確保し、実践することを目的とします。
- 各島々において、障害者・高齢者でも取り組める作業が個々の在住する地域で発生することや、簡

易な軽作業も多く、年齢・性別・ハンディキャップ、疾病等一人ひとりの状況に応じた取組が可能である。

- 黒糖焼酎が島民に愛飲され続けることと同時に、作業従事者は個々の作業年月、年齢と能力、体力の変化に合わせて安心・安全な仕事として、高齢者の就労、社会参加推進や障害者が自立し社会参加しやすい環境づくりの一面も持ち続け、いきいき。安心して暮らせるための仕事づくりとなることを目的とします。
- この仕事・作業を通じて地域社会づくりや社会貢献していることの自負や島民（障害者、高齢者）の夢と働く人の誇りの持てる活動として実践し、30数年前にあった児童などが小売店にびんを売って小遣いになっていた事を、今度は新たに消費者（島民）、事業所、焼酎メーカー、焼酎卸売問屋、焼酎小売販売業者、広域行政が一緒になりつくる、奄美版共生・協働型地域コミュニティの再生・創出としての取組実施を目的とします。
- びんリユース活動は多くの業種、島民、行政が関わり、協働作業とし活動することで充実、拡大、存続が考えられます。群民参加型のチーム目標として、奄美の世界自然遺産登録協働基金（仮称）創設の賛同後一円一円の積み立てをし、世界自然遺産登録への小さな貢献を目標・目的とします。